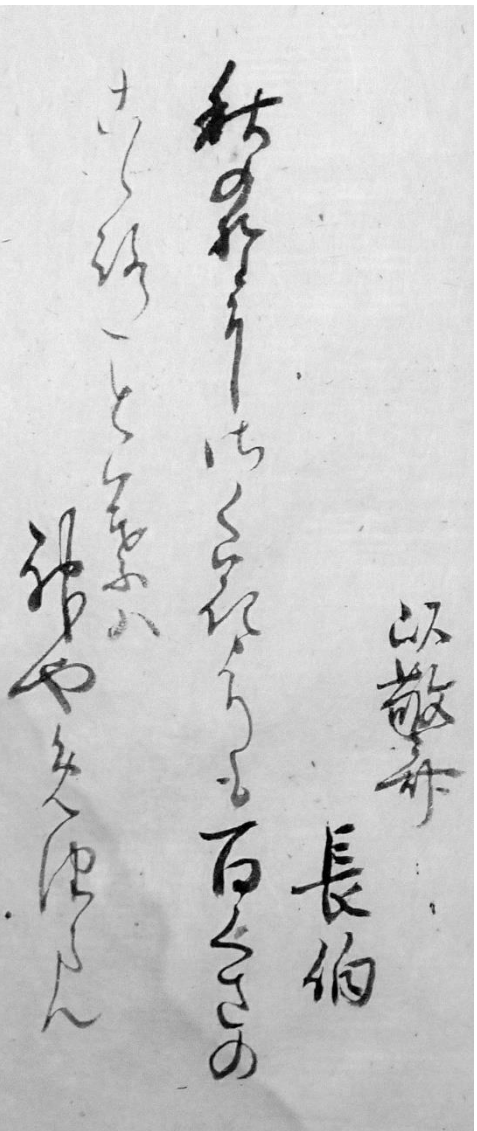


人々百首の歌よみて氏神に
納め奉られけるにその心を
よみて奥にくハふへきよし
すゝめ物せられければ



以敬斎

長伯

以敬斎

長伯

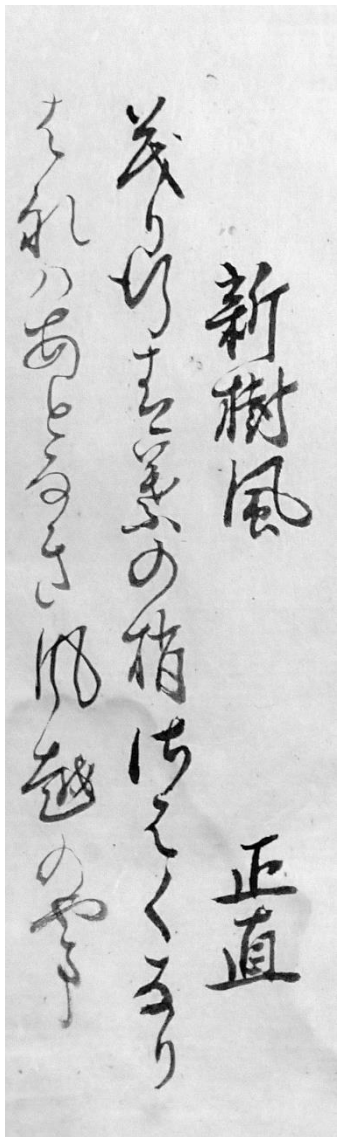
秋の野

神や

【詞書】 倉敷村の人々が百首の歌を詠んで氏神に奉納するにあたり、その心を和歌に詠んで百首の奥書に加えてほしいと勧められたので。

【作者】 有賀長伯。この百首に入れられた歌を添削した歌人・歌学者。詳細は前記。

【意味】 秋の野原を彩る植物よりも百人百様の思いが託された言葉はきつと神様が喜んでほめてくれるでしょう。★この意味に合うように空白部分の文字を当ててみましょう。



新樹風

正直

茂り行青葉の梢

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

□ □ □ □ □ □ □ □

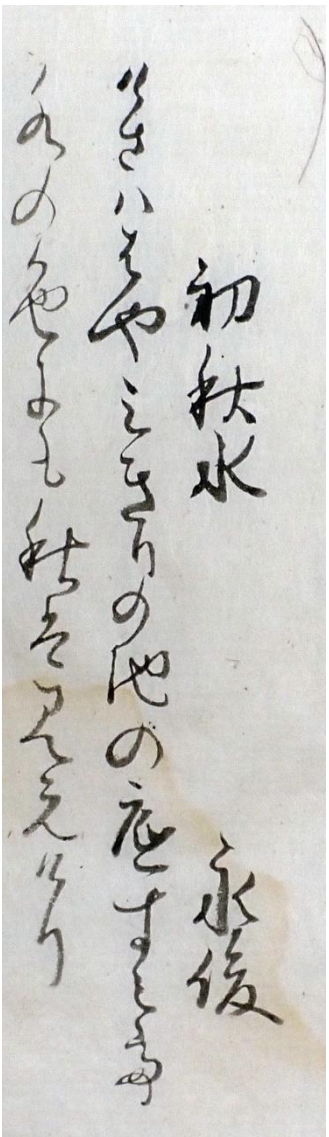
あとなき風越の

□ □ □ □ □ □ □ □

【歌題】 新緑の木に吹く風

【作者】 小野正直。庄屋小野家八代目。詳細は前記。

【意味】 茂っていく青葉の梢が音を出して揺れている。風が越えていく高い場所に桜は
痕跡もとどめず、訪れる人もなくなった。★この意味に合うように空白部分の文字を当
ててみましょう。



初秋水

永俊

□ □ □ □ □ □ □ □

すすはるやとさりの池の底

□ □ □ □ □ □ □ □

水の

□ □ □ □ □ □ □ □

□ □ □ □ □ □ □ □

□ □ □ □ □ □ □ □

□ □ □ □ □ □ □ □

□ □ □ □ □ □ □ □

見え

□ □ □ □ □ □ □ □

□ □ □ □ □ □ □ □

□ □ □ □ □ □ □ □

【歌題】 初秋の水

【作者】 井上永俊。宮崎屋井上家六代目。詳細は前記。

【意味】 今日の朝はもう池の底が透き通っているように見え、水の気配から次の季節の
到来が察せられるようだ。★この意味に合うように空白部分の文字を当ててみましょう。

★三首とも、【意味】の文章から和歌に出てくる言葉を外し、ぼかしてあります。

演習問題②

ここまで見た実例や演習問題①の二首などに参考になる情報が入っているので、それらを参考に全文を活字化してみましよう。

里卯花 信雅
月香のまねをふまえて白くか
うのえねあこよ二万の里人

待部公 永俊
おまごういねつうまのなとま
たうまのひききのくまもり耶